

InstallShield 2021 リリース ノート

オリジナル リリース 2021 年 9 月、R2 を含むアップデート リリース (2021 年 12 月)

はじめに.....	2
R2 での変更点.....	2
Windows 11 および Windows Server 2022 のサポート強化	2
完全な ARM サポート.....	2
R1 の新しい機能.....	3
Cloud License Server (CLS) を使ったライセンスング	3
前提条件における Windows Package Manager のサポート	4
MSIX アップデート向けのアプリ インストーラー ファイルのサポート	4
シンプルでモダンなインストーラー	5
Windows 11 のサポート.....	5
強化機能	5
InstallShield 2021 R2.....	5
InstallShield 2021 R1.....	6
重要な情報.....	7
同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要	7
InstallShield の評価.....	7
InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する	8
InstallShield の複数エディションをインストールする.....	8
InstallShield の複数バージョンをインストールする.....	8
プロジェクトのアップグレードに関するアラート.....	9
InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報	9
ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更.....	9
文字列のローカライズに関する考慮	10
バグ修正	10
InstallShield 2021 R2.....	10
InstallShield 2021 R1.....	12
システム要件.....	12
InstallShield を実行するシステムの要件.....	13
ターゲット システムの要件	14
既知の問題	15
法的情報	15

はじめに

InstallShield は、ハイクオリティな Windows Installer または InstallScript ベースのインストール、MSIX パッケージ、および Microsoft App-V パッケージをオーサリングできる業界標準ツールです。

InstallShield 2021 では、最新テクノロジーを手軽に使用できる新しい機能、強化機能とバグ修正も提供されています。

R2 での変更点

InstallShield 2021 R2 には、以下の変更が含まれています:

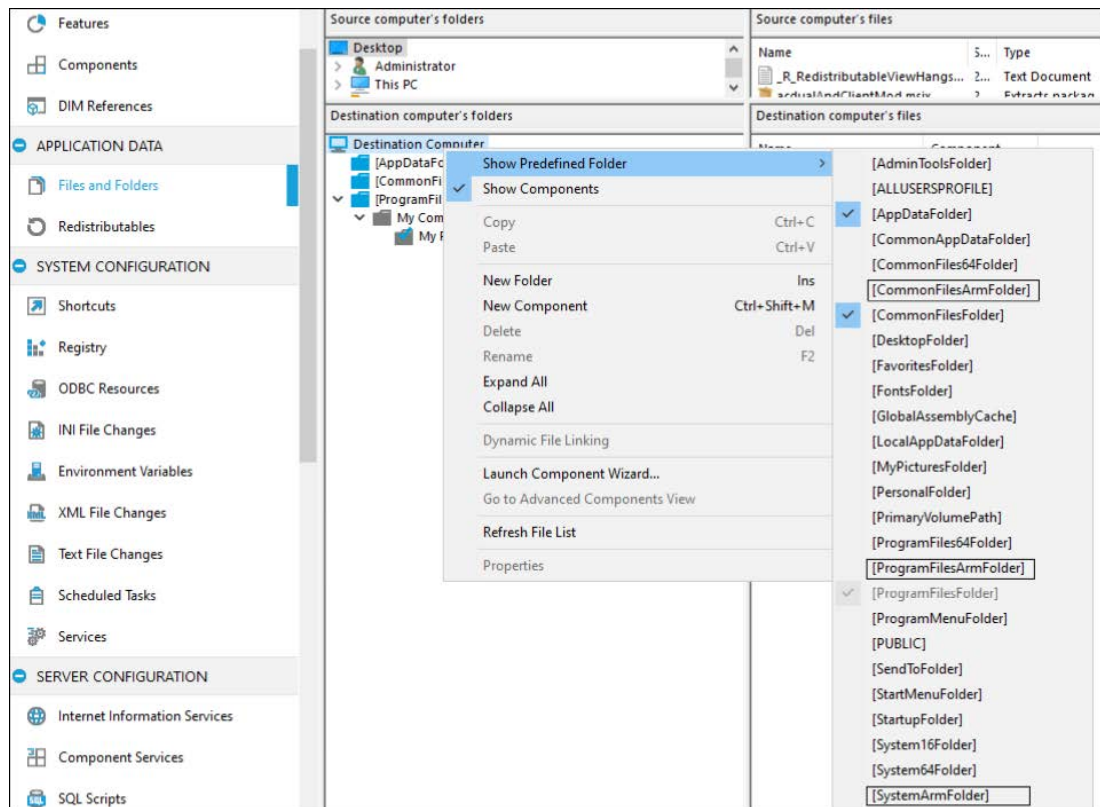
- [Windows 11 および Windows Server 2022 のサポート強化](#)
- [完全な ARM サポート](#)

Windows 11 および Windows Server 2022 のサポート強化

Windows 11 および Windows Server 2022 をターゲットに特定してインストール条件を構成することができます。

完全な ARM サポート

ARM64 ベースのデバイスをターゲットとするソフトウェア インストーラで、今回より Windows ARM マシン上のネイティブな ARM の場所にファイルをインストールすることができます。InstallShield を使って、定義済みのフォルダーから ARM 固有のフォルダーを InstallShield プロジェクトに追加することができます。ARM マシンにファイルをインストールするこの機能には、Windows Installer バージョン 5.0 およびテンプレート概要に Arm64 が必要です。Windows Installer のターゲット バージョンおよびテンプレート概要は、InstallShield プロジェクトの [一般情報] ビューで構成することができます。



R1 の新しい機能

InstallShield 2021 R1 には、以下の新機能が追加されています:

- Cloud License Server (CLS) を使ったライセンスング
- 前提条件における Windows Package Manager のサポート
- MSIX アップデート向けのアプリ インストーラー ファイルのサポート
- シンプルでモダンなインストーラー
- Windows 11 のサポート

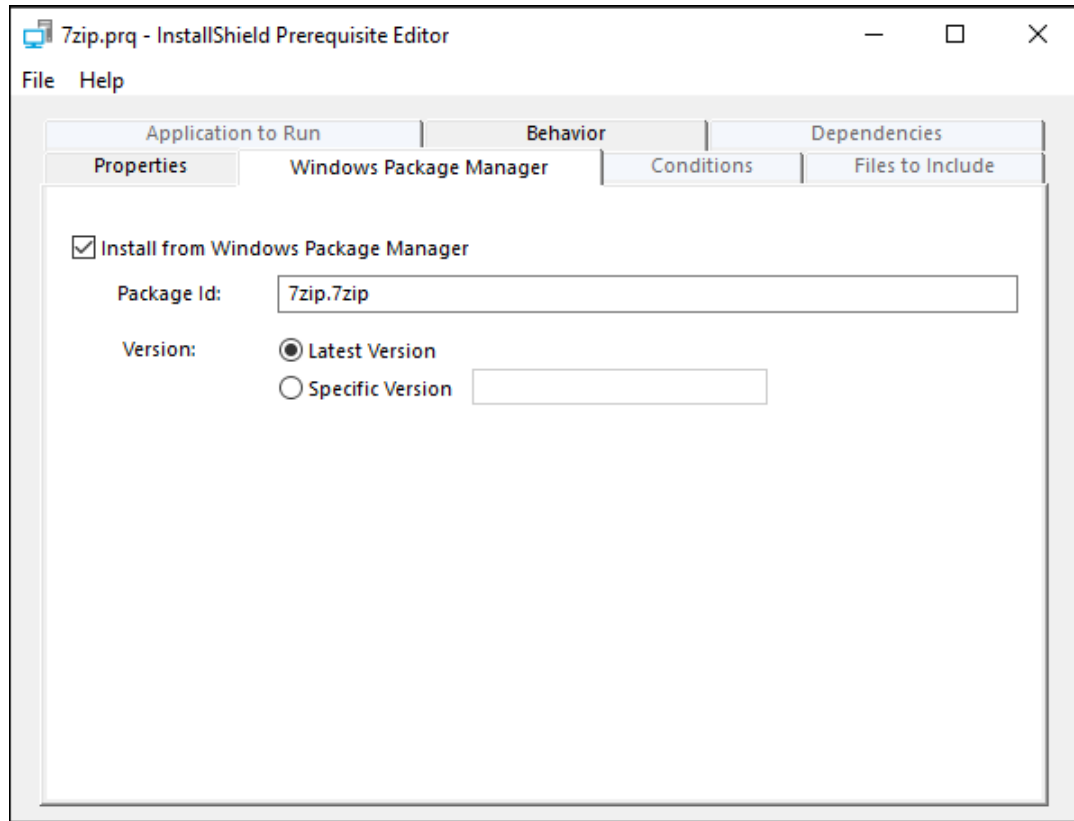
Cloud License Server (CLS) を使ったライセンスング

InstallShield は、Cloud License Server (CLS) を使った同時接続ライセンスを提供します。

Cloud License Server (CLS) は、Reverera FlexNet Cloud Licensing Service でホストされ、InstallShield が使用するライセンス権利を保管します。Cloud License Server (CLS) を使用することで、ローカル ライセンス サーバーをセットアップおよび管理するのに比べて時間と労力が削減されるだけでなく、複数のマシンからライセンスをチェックアウトできる同時接続ライセンスを使用でき、また DepOps ビルドパイプラインからのビルドを簡単に構成することができます。

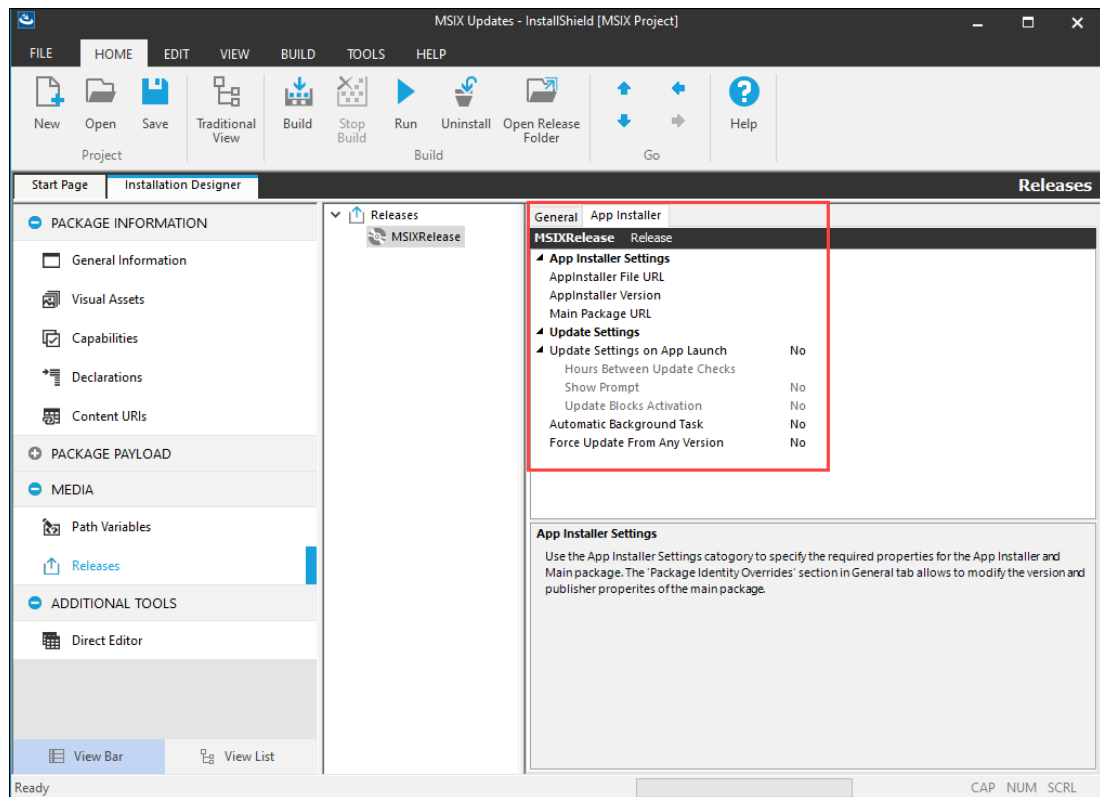
前提条件における Windows Package Manager のサポート

InstallShield 2021 R1 では、InstallShield 前提条件エディターに [Windows Package Manager] タブが追加されています。[Windows Package Manager] タブを使って、製品に前提条件としてインストールしたい Windows Package Manager (WPM) パッケージを指定することができます。



MSIX アップデート向けのアプリ インストーラー ファイルのサポート

今回より、アプリ インストーラー ファイルを使って MSIX アップデートを構成することができます。



シンプルでモダンなインストーラー

[ウィザード インターフェイス] ビューの強化機能として [最小ウィザード ページ] が追加されました。このページを使ってフレームを使わない画面でエンド ユーザーにモダンなインストール/アンインストール エクスペリエンスを提供することができます。

Windows 11 のサポート

InstallShield 2021 R1 で作成されたセットアップは、Windows 11 バージョン上で実行可能です。

強化機能

InstallShield 2021 リリースには、以下の強化機能が含まれています:

- [InstallShield 2021 R2](#)
- [InstallShield 2021 R1](#)

InstallShield 2021 R2

InstallShield 2021 R2 リリースには、以下の強化機能が含まれています:

スイートで ARM アーキテクチャをサポート

InstallShield では今回より、ターゲット システム アーキテクチャが Arm ベースのシステム (Arm/Arm64) かどうかをチェックするプラットフォーム条件を追加することができます。



メモ・この変更は IOJ-2182157 として記録されています。

オートメーション インターフェイスにおける ISWiFile.AlwaysOverwrite Property のサポート

今回より、オートメーション インターフェイスを使って ISWiFile.AlwaysOverwrite プロパティを設定することができます。



メモ・この変更は IOJ-1623084 として記録されています。

ARM 固有のフォルダーにファイルをインストールできる機能

今回より、InstallShield を使って定義済みのフォルダーから ARM 固有のフォルダーを InstallShield プロジェクトに追加することができます。ARM マシンにファイルをインストールするこの機能には、Windows Installer バージョン 5.0 およびテンプレート概要に Arm64 が必要です。Windows Installer のターゲット バージョンおよびテンプレート概要は、InstallShield プロジェクトの [一般情報] ビューで構成することができます。



メモ・この変更は IOJ-1930508 として記録されています。

InstallShield 2021 R1

InstallShield 2021 R1 リリースには、以下の強化機能が含まれています:

インストーラーの [カスタム アイコン] の強化

インストール/アンインストール処理中、タスクバーにカスタム アイコンを表示するサポートが追加されました。以前、カスタム アイコンは Setup.exe の初期化ダイアログでのみ表示されました。



メモ・この変更は IOJ-2185065 として記録されています。

デバッグ ログ記録を上書きする新しいオプション

スイート プロジェクトでは、[デバッグ ログを常に作成する] オプションが [はい] に設定されているとき、デバッグ ログ記録を上書きする新しい UI オプションが追加されています。



メモ・この変更は IOJ-2156716 として記録されています。

重要な情報

InstallShield 2021 リリースに関する次の重要な情報に注意してください:

- [InstallShield の評価](#)
- [InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する](#)
- [InstallShield の複数エディションをインストールする](#)
- [InstallShield の複数バージョンをインストールする](#)

同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要

InstallShield の同時接続ライセンスを使用する場合、InstallShield 2021 を使用する前にライセンス サーバー上の FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンをアップデートする必要があります。

InstallShield の以前のバージョンと共に出荷された FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンでは、InstallShield 2021 のライセンスを管理することはできません。これらのライセンスが使用可能な場合でも、InstallShield 2021 は古いバージョンのライセンス サーバーからライセンスをチェックアウトしません。



メモ・FlexNet Licensing Server ソフトウェア v11.16.6.0 で、InstallShield 2020 および InstallShield 2021 のライセンスを管理することができます。InstallShield 2020 から InstallShield 2021 にアップグレードすると、既存する FlexNet Licensing Server ソフトウェア v11.16.6.0 を使用できるようになります。InstallShield 2019 以降のバージョンからアップグレードする場合、FlexNet Licensing Server ソフトウェアを v11.16.6.0 にアップグレードする必要があります。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアの最新版は、[Reverera 製品 & ライセンス センター](#)からダウンロードできます。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアのインストール手順については、「[InstallShield 2016 以降の同時接続ライセンス用のライセンス サーバーを設定する](#)」を参照してください。

InstallShield の評価

InstallShield のライセンスを購入していなくても、InstallShield をインストールしてアクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに使用すると、InstallShield は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、「[InstallShield 評価版の機能制限について](#)」を参照してください。評価版の制限は、InstallShield がアクティベートされたとき、またはライセンス サーバーに接続して、そのライセンスがチェックアウトされたときに解除されます。



メモ・InstallShield 2021 より、Professional Edition の名前が「InstallShield」に変更されましたが、Premier Edition は引き続き「InstallShield Premier」と呼ばれます。

InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

次のインストールは、[\[InstallShield のダウンロードおよびライセンスの使用\]](#) に記述されている通り、Reverera 製品 & ライセンス センターからダウンロードが可能です:

- InstallShield
- 再配布可能ファイル (例えば、InstallShield 前提条件および InstallScript オブジェクト)
- Standalone Build、および InstallShield MSI ツールなどのアドオン (使用可能な場合)
- FlexNet Licensing Server ソフトウェア (同時接続ライセンスを購入した場合で、組織のライセンスサーバーを設定する必要がある場合)
- スキン カスタマイズ キット
- InstallScript オブジェクトのテンプレート
- InstallShield サービス パック (使用可能な場合)



メモ・InstallShield 2021 より、*Collaboration Edition (DIM エディター)* が使用できなくなりました。

InstallShield の複数エディションをインストールする

InstallShield 2021Premier または InstallShield は、同時に同じシステム上に 1 つのエディションのみをインストールできます。

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2021 は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

InstallShield 2021 Standalone Build は、同じマシン上で別のバージョンの Standalone Build と共存することができます。ほとんどの場合、InstallShield がインストールされているマシン上に Standalone Build がインストールされることはありません。この両方を同じマシン上にインストールして、オートメーション インターフェイスを使用する場合は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「*Standalone Build と InstallShield を同一マシン上にインストールする*」トピックに記載されている、特殊な登録とアンインストールの考慮について参照してください。

プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2016 および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2021 にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2021 プロジェクトと InstallShield 2016 および以前のバージョンから InstallShield 2021 にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。

- [InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報](#)
- [ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更](#)
- [文字列のローカライズに関する考慮](#)

InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield で変換が行われる前に、例えば .777 (.ism プロジェクトの場合) または .2016 (.issuite プロジェクトの場合) というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .777 または .2016 を取り除いてください。InstallShield 2021 プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできませんので、ご注意ください。

InstallShield 2016 以前、InstallShield 12 以前、InstallShield DevStudio、InstallShield Professional 7 以前、および InstallShield Developer 8 以前のバージョンの InstallShield で作成された既存プロジェクトを InstallShield 2021 にアップグレードできます。InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2021 にアップグレードすることはできませんので、ご注意ください。

ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更

スイート以外のすべてのプロジェクトの種類では、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムに必要な Windows の最小バージョンです。スイート (アドバンスド UI、およびスイート/アドバンスド UI プロジェクト タイプ) の場合、Windows Vista および Windows Server 2008 がターゲット システム上で必要とされる Windows の最小バージョンです。

文字列のローカライズに関する考慮

InstallShield 2016 から、ローカライズ済み文字列の検出と受け渡しに関する変更が行われました。たとえば、無効な文字のまわりに角括弧が付けられたローカライズ済み文字列のコンテンツは、ビルド時の警告またはエラーを引き起こします。そのため、インストールの作成作業中に次の新しい警告やエラーが発生する場合があります。

エラー/警告番号	メッセージ	トラブルシューティング情報
-7355	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 の検証基準を満たしていません。	この警告は、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の列の検証基準を満たしていない時に発生します。この警告を解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。
-7354	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません。	このエラーは、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の名前付き列に有効な値が含まれていない時に発生します。このエラーを解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。

バグ修正

このセクションには、InstallShield の以下のバージョンで修正された顧客の問題が掲載されています:

- [InstallShield 2021 R2](#)
- [InstallShield 2021 R1](#)

InstallShield 2021 R2

InstallShield 2021 R2 では、次の問題が解決されています。

問題番号	問題の概要
IOJ-2222873	スイート プロジェクトで Windows 10 および Windows Server 2019 に Exit 条件を追加するとセットアップがハングして終了メッセージが表示されませんでした。この問題は解決されました。
IOJ-2213480	DISK1SETUPEXENAME は現在の .exe 名の代わりに setup.exe 名を表示しました。この問題は、新しいシステム変数 SETUPEXENAME によって修正されました。

問題番号	問題の概要
IOJ-2206307	IIS Web サイトのインストール中、ペイロード ファイルにパッケージおよびコピーされた構成済みの web.config ファイルから IIS 認証の詳細が削除されました。この問題は、構成済みの web.config で定義された認証設定を保持することで解決されました。
IOJ-2163622 IOJ-1591339	InstallScript Setup.exe は、その後前提条件の動作が「記録する。マシンが再起動された場合、再開を失敗して、インストールの後に再起動する」に設定されている場合、インストール後に再起動しませんでした。この問題は解決されました。
IOJ-2157223	InstallScript MSI プロジェクトでは、アンインストール中にインストール情報の場所にファイルが残されました。この問題は解決されました。
IOJ-1914854	MSI ダイレクト編集モード を使って 5000 以上のファイルを MSI パッケージに追加すると、問題が発生しました。この問題は解決されました。
IOJ-2232274	ISBEWI64.exe - IA64 マシン用の InstallScript エンジン再配布可能ファイルが SHA256 で署名されませんでした。この問題は解決されました。
IOJ-2231277	InstallScript カスタム アクションを実行中に ISBEW64.exe/ISBEWI64.exe のデジタル署名を検証する機能が追加されました。これらの実行可能ファイルは、X64/IA64 マシンでカスタム アクションを実行する InstallScript エンジンの一部です。
IOJ-2222867	Microsoft .net 4.7.1 および 4.7.2 前提条件を Web またはオフラインでダウンロードすると失敗しました。この問題は解決されました。
IOJ-2218565	Microsoft ReportViewer 2012 および Microsoft SQL Server 2012 Express SP2 System CLR Types (x64) * (x86) 再配布可能ファイルのリンクが破損していました。再配布可能ファイルへのリンクが修復されており、これらをダウンロードすることが可能になりました。
IOJ-2217285	InstallShield のインストール時、Microsoft Visual C++ 2008 Redistributable - x86 がターゲットマシン上でサポートされませんでした。この問題は解決されました。
IOJ-2216294	Microsoft SQL Server 2016 Redistributables のリンクが破損していました。再配布可能ファイルへのリンクが修復されました。
IOJ-2202540	[Web からダウンロード] オプションを使って VC++2010 および 2010SP1 前提条件をダウンロードすると、より新しいバージョンがインストールされている場合に前提条件のインストールが失敗しました。この問題は解決されました。
IOJ-2202504	Microsoft Report Viewer 2015 および Microsoft SQL Server 2014 Express SP2 System CLR Types (x86) がプロジェクトに追加された場合、インストーラーのビルドが失敗しました。この問題は解決されました。

問題番号	問題の概要
IOJ-2155594	スイート プロジェクトで、[パッケージをローカルにキャッシュする] オプションに [いいえ] が選択されている場合、セットアップをネットワークドライブからインストールすると失敗しました。この問題は解決されました。ただし、EXE パッケージを正しくアンインストールするには、[パッケージをローカルにキャッシュする] オプションを [はい] に設定しなくてはなりません。
IOJ-2115802	サポートされていない MXSML4 ファイルが InstallShield StandAlone Build (SAB) で使用されていました。SAB インストーラーから MXSML4 の依存関係が削除され、この問題が解決されました。
IOJ-2158618	Windows 上で PowerShell カスタムアクションが MSI プロパティを削除する代わりに変更を行い、関連チェックボックスが選択されたままの状態でした。この問題は解決されました。

InstallShield 2021 R1

InstallShield 2021 R1 では、次の問題が解決されています。

問題番号	問題の概要
IOJ-2200424	再配布可能ファイル ギャラリーから Windows Installer 3.1(x86) 前提条件をダウンロード中にエラーが発生しました。この問題は解決されました。
IOJ-2111557	VerFindFileVersion InstallScript 関数は、PATH 環境変数値で実行可能ファイルを見つけることができませんでした。VerFindFileVersion でパス変数はサポートされていません。そのため、製品の動作と一致するようにヘルプの手順が更新されています。
IOJ-1992462	機能の InstallationType を [カスタム] として選択した後に InstallationType を [完全] として選択すると、InstallationType がすべての機能をインストールしませんでした。この問題は解決されました。
IOJ-2205091	MSIX プロジェクトをビルド中、大文字のファイル名が小文字に変更されました。この問題は解決されました。今回より、ファイル名の大文字と小文字は保持されます。

InstallShield 2020 R3 SP1 で解決された問題については、「[バグ修正](#)」を参照してください。

システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム (ランタイム環境) の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム (オーサリング環境) の要件が説明されています。

InstallShield を実行するシステムの要件

InstallShield は、これらのオペレーティング システムの最も新しいパッチおよびサービス パックが適用されている最新版で実行します。

項目	説明
プロセッサ	Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)
RAM	256 MB の RAM (512 MB 推奨)
ハードディスク	750 MB 空き領域
ディスプレイ	1024 x 768 (XGA) 以上の解像度
オペレーティング システム	<ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2008• Windows 7• Windows Server 2008 R2• Windows 8• Windows Server 2012• Windows 8.1• Windows Server 2012 R2• Windows 10• Windows Server 2016• Windows Server 2019• Windows 11• Windows Server 2022
権限	システムの管理者権限
マウス	Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス

項目	説明
InstallShield と Visual Studio との統合 (オプション)	<p>Microsoft Visual Studio の以下のバージョンを InstallShield Premier Edition または InstallShield Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Visual Studio 2008 • Visual Studio 2010 • Visual Studio 2012 • Visual Studio 2013 • Visual Studio 2015 • Visual Studio 2017 • Visual Studio 2019 <p>Visual Studio のこれらのバージョンの以下のエディションは、InstallShield Premier または InstallShield Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Professional • Premium • Ultimate • Enterprise

ターゲット システムの要件

スイート (アドバンスド UI、およびスイート/アドバンスド UI プロジェクト タイプ) 以外のすべてのプロジェクトの種類では、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムに必要な Windows の最小バージョンです。スイートの場合、Windows Vista および Windows Server 2008 がターゲット システム上で必要とされる Windows の最小バージョンです。

ターゲット システムは、次のオペレーティング システムの最小要件を満たさなくてはなりません:

- Windows XP SP3
- Windows Server 2003 SP2
- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2008 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows 8.1
- Windows Server 2012 R2

- Windows 10
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows 11
- Windows Server 2022

ターゲット システムで、SSE2 インストラクション セットがサポートされていることが必須です。

既知の問題

InstallShield 2021 の既知の問題はありません。

法的情報

著作権情報

Copyright © 2021 Flexera Software.All Rights Reserved.

この出版物には、Flexera Software およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な製作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera Software からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera Software によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera Software が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本テクノロジーおよびそれに関する情報のすべての複製は Flexera Software より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

知的財産

Flexera Software が所有する商標および特許の一覧は、<https://www.revenera.com/legal/intellectual-property.html> を参照してください。フレクセラ・ソフトウェア製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

(米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商業用コンピュータ ソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。